



メダカの知恵?

深小教頭 犬石直介

四月に深小学校に赴任してきて、早三ヶ月。急がしい日々の中で、深町の自然にも触れ、心とまかせています。
先日、深町内でメダカを取った時のことを紹介しましょう。メダカは、五年生の理科教材になっているので、飼育観察をしていくのですが、昔はどこにもいなかったメダカも数が減り、所によっては、絶滅の危機に瀕しているとも言われています。
幸いにも深町には、メダカは生息しており、無事採取し教材とするのができました。採取した所は、三面コンクリート張りの水深五、七センチの水路でした。
人間に見つかれば、簡単にかまってしまうのですが、自然界の中だけで考えれば、けっこう住みごころはよさそうだなと感心しました。そのわけは、こ

この水路には、大きい魚は上がってこれません。さらに、良いことには、長い間に土が積もり草も茂り流れに濁りもできています。水路上に橋もかかっています。かげもつくって来ています。外部から人間が来ることなどを除けば、人口の水路とはいえない、最高のすみかと言えるのではないのでしょうか。
ただ、一・二疑問もあります。一つは、水路と下の池には落差があり、メダカには越えることはできません。池の水かさが増した時上がったのかな?、二つ目は、大雨で水路が急流にでもなったらどうなるのかな?など、ともかく、この水路ができて以来、メダカたちはいつしか恰好のすみかを見つけすみついてしまったのです。
こんなことを思いながら、深町のメダカたちが、元気に暮らしてくれていることを祈りたいと思います。

その水路の水は、十メートルも行けば池に流れ込みます。岸には水草もあり、そこも恰好のすみかとなっているでしょうが、最近ではブラックバスやブルーギルなど少魚を餌とする魚たちが多く危険もあります。その点、

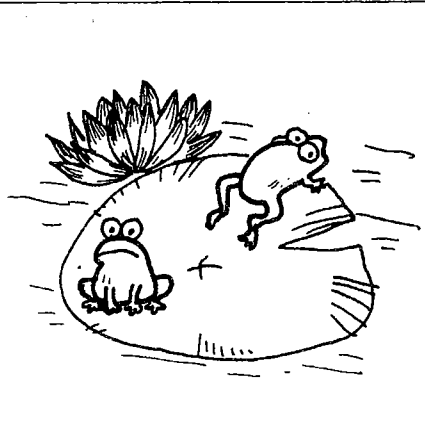
教育現場で思うこと(十)

成末肇士

感性の基礎を身につけるのは、生後まもない時期に始まる。三歳までに「心」を作り、六歳までに「養」を身につけさせることが大切だ。前回述べたこと

感性は、学童期を通じて一八歳位まで、ずっと育っていきま

第一は自信。自分の身体、行動、能力に自信をもち、周囲の世界を思うようにコントロールできるという感覚をもって



第二、興味や好奇心。何かについて知ることは楽しいこと

第三は、自制心と粘り強さ。年齢相応の方法で、自分がコントロールでき、努力を続ける

第四、仲間意識と協調性。自分は他人を理解し、他人も自分を理解してくれると感じている

第五、自分の考えを表現できる。言葉によって、考えや気持ちを、他人と交流できること。

過保護・過干渉が現実の子育てです。自信を持って、辛抱強くやり遂げることを、子どもに要求するのは難しいことです。

「ふかまのまど」を読んで

轟岡村 満雄

郷土誌「ふかまのまど」への感想を投稿願いたい、との依頼があり、そのような能力もないのにお受けしてしまい、後悔しつつペンを持つ次第です。

私は家庭の事情で、五年前他県から当地に永住、お世話になったこととなった者ですが、実のところこのような小さな町で、毎月定期的に発行され、配布されてくる本誌を手にして、この文化的な活動に感服し、編集者の方々のご苦勞を痛感している

記事の内容も、教育に関するものはご専門の先生方のものであり、青少年の暴力ざたや、犯罪などが連日のように報道されている昨今、素人の私にとっては大変参考、ときとして大変感銘を受けるもので、以前(何号だったか忘れましたが)に掲載された「ソビエト抑留記」や今連載中の「満蒙開拓青少年義勇軍」の記(編者 西野 啓)などは、

習のしかた」は、当然小学校でも、その育成を深めていきます。感性教育の基本になるものです。小学校低学年では、他人の話に耳を傾け、相手に対する共感を身につけさせる。自然環境や生き物を育てることで、体験を通じて、子どもが、何をどう感じ取るかを、サポートしてやること等を実行します。自分の考えや、感情を言葉で表現することも重視します。江戸町人社会での格言、「九つ言葉」にあたり

四・五年生になると、子どもは友達関係を重視するようになります。友達との遊び、ふざけ、喧嘩を通して、相手に対する思いやりも育つし、自分を押えることも学べるのです。「共感」が育つはず

昔は、喧嘩をして、たとえ相手に怪我をさせたとしても、親と一緒に謝りにいくことで、親友にもなれたという話がよくありました。しかし、最近ではふざけや喧嘩は、すぐに「いじめ」として、親が学校への苦情となるのです。

少子化で、兄弟喧嘩もできず、学校での喧嘩も、全て禁止となつた時、子どもたちの社会性や共感へのトレーニングはどこでするのでしょうか。

学校の成績が伸びるかどうかは、知識の量や早熟な読解能力よりもむしろ、これ等の感性の豊かさにあると思われま



昭和一桁生まれの私には、筆者の歩まれてきた苦難を、実感として読ませていただき今更ながら「一物」の豊富な現在の有難さを痛感している有様です。

また、「深町の地方弁」や「歴史余話」などは、都会人だった私にとっては参考になる記事ですし、「編集後記」も朝日新聞の「天声人語」欄と同様、興味深く拝読させていただいております。

謹んでお悔み申し上げます

・綱掛幸子様 七三歳 育三日
・国安生人様 六七歳 育二日

七月町内各種団体行事予定

◆小学校(幼)

▽地区懇談会 四日

▽集金日 七日

▽体重測定(低) 八日

同(高) 九日

同 集金日(幼) 一〇日

▽個人懇談 一三日

▽終業式 一八日

◆女性会

▽町民会館掃除 五日

▽県道清掃(ソリ) 予定

▽親睦会 十日・十四日・十八日

◆子ども会

▽キャンプ(因島) 一九・二〇日

◆如水館

▽終業式 一八日

▽対外野球(両山陸夫) 二日

「荒れる学校」と言えば「中学校」を連想していたが、最近では小学校にまで及び、各種報道機関も取り上げ話題を提供してくる。NHKは報道特集「広がる学級崩壊」というタイトルで放映。

教室を抜け出る児童の扱いを巡り、担任と同僚教師との連携の限界と、現場管理者としての校長の資質を問う内容。

日経(育三)「子供を創る」では、教室の両端で、小学校六年生の男子生徒が、大声でしゃべり合う、担任の女教師が

このくそばばあ」と叫ぶ。子どもは躊躇する。この他にも、埼玉の所沢高校で、生徒が卒業式と入学式をボイコットしたニュースも、今年四月に伝えられた。

「選択の自由」を盾に、許容範囲と考えているのだろうか。子どもは「自由も自主も尊重しなければならぬ。また、学校に「お任せ」も便法としてはあるだろう。しかし、保護者としての責任もわきまえない。学校を管理指導する立場の県・市教委には、「荒れる学校」への処方箋を書いてもらいたい。

「修学旅行の思い出」

大阪 奈良 京都・・・と。修学旅行の思い出をリユックに
いっばいつめて、今年も深小学校六年生八人が帰ってきました。
見たこと、聞いたこと、感じたことを、全員に綴ってもらいま
した。数回に分けて掲載します。

宇江 篤

五月十三日の夜、ぼくはいつ
よりも早めにベッドにつきまし
た。それはこの夜の次の日が修
学旅行だったからです。早くベ
ッドについたのはよかったです。
けど、興奮してなかなか眠り
につけませんでした。そして次
の日の朝も興奮して早く起き
すぎてしまいました。その後何
度もねようとしたんだけど眠れ
ませんでした。そしてそのまま
ベッドで、起きたままころん
でいました。

起床予定時刻になったので着
替えて一階に下りました。七時
十三分ごろぼくは家を出てバス
停へ向かいました。バス停へ行
ってみると、浩太郎君と浩太郎
君のお母さん来ていました。そ
れからそくそくと下組の六年生
のみんながバス停に集まって来
ました。最後に美穂ちゃん、と
美穂ちゃんのお母さんが車に乗
ってバス停から美穂ちゃんの車
に乗って三原駅まで生きました。
三原駅につくと下組以外のみん
なはもうついていました。そし
て駅の中に入り新幹線に乗りま
した。乗って大阪まで行くのに
二時間かかると知って、「ああ

二時間かあ長いなあー」と思い
ました。でもみんないろいろな
遊んでいたら、その二時間もあ
ったというまに過ぎて大阪駅につ
きました。大阪駅につくと、ぼ
くたちが乗るバスのガイドさん
たちが、ぼくたちを待っていました。

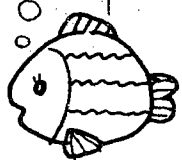
そしてバスに乗り、海遊館へ
むかいました。ぼくはこの海遊
館へいるというジンベエザメが
見られると聞いていたので、す
ごくわくわくしていました。

海遊館につくと、最初にお弁
当を食べました。それから、海
遊館の中に入って水槽がある所
まで行きました。その日は進め
ないというほどは、客がいっぱ
いなかったのでよかったです。

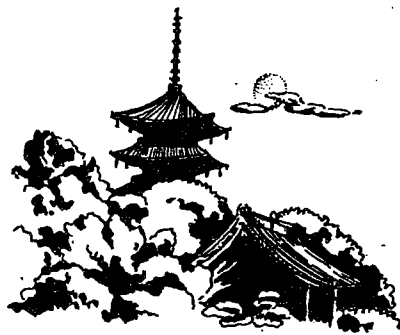
いろいろな水槽を見て前に進
むと、全部の水槽の中心に大き
な水槽がありました。その中に
は、ジンベエザメがいました。そ
のジンベエザメの大きな体はと
てもいんしゅのように残っています。

そして、海遊館での買い物です
まして、またバスに乗りました。
そして、バスの中で、海遊館の
次に行く法隆寺の話ガイドさ
んから聞きました。

そして法隆寺につきました。
法隆寺では、いろいろな見て回り
ました。ぼくは、法隆寺がすご



く昔の木造建造物であることを
知っていたから、どんな作りに
なっているんだろうと思ってい
ました。
次は東大寺の南大門。上を見
上げると、南大門はすごく大き
いということが一目でわかりま
した。南大門の中には、すごく
大きな金剛力士像がありました。



もっと奥に行くと、大仏殿があ
りました。その中に入ると、想
像を越える大きさの大仏があ
りました。ガイドさんが言うに
は、この大仏の本名は「ビルシ
ヤナ仏」だそうです。ぼくは、
こんな大きな大仏がよく作られ
たなあと思いました。

夕方、旅館「さるさわ」につ
き家に電話したりしていると、食
事の時間になりました。とても
おいしかったです。一日目の夜、
買い物に行きました。旅館に帰
ってお風呂に入りました。ねる
前、みんないろいろな遊びまし
た。ちょっとうるさすぎたよう
です。

島国である
・ 地震の多い火山国である
・ 人口も多く、大都市へ集中
している
などである。
常夏の国であるから、豊富な
温泉も我が国のようには利用し
ていない。
国旗の色も同じである。即ち
日本は白地に太陽の紅だが、イ
ンドネシアの国旗は、長方形の
上半分が紅で、下半分は白であ
る。紅は「純血」白は「清く正
しく」を意味するらしい。
独立記念日の八月一七日から
半月以上もたっていたが、どこ
へ行っても毎日あちこちで国旗
がみられた。我が国では、祝日
でもめったに見られない。この
違いはどこから来ているのだら
うか。

人生雑感

船本 輝明



早苗の植田も早や青田と化し
て、爽やかに湧り来る初夏の風。
小さな幸いの実感です。
こんな日々の実感が俺には似
合っている。七十歳を過ぎて無
理が効かなくなった勢いか、最
近では水彩や、水墨の素描的な

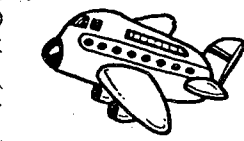


絵が増してきました。
その一つ、今回は水墨の自画
像を出させて戴きました。御笑
今後共よろしくネ。

インドネシア(ジャワ・バリ島)旅行記(一)

インドネシアと日本

高崎 壽郎



昨秋、ジャワ・バリ島へ旅行
する機会に恵まれた。
インドネシアは、通貨・経済危
機から一気に政治・社会不安に
なり、本年五月スハルト大統領
辞任で、三二年の長期政権は幕
を閉じた。政情急変は予期せぬ
ことだったが、今後は民主化の
道を少しずつ歩んでいくことだ
ろう。



この国は、昭和二〇年(一九
四五)に独立した発展途上国で
あるが、第二次世界大戦の一九
四三、五年には、日本軍の占領
下にあった。それ以前、約三百
年間はオランダの植民地。
昭和一六年(一九四一) 太平
洋戦争が始まると、日本軍はい
ち早く南方特に現在のインドネ
シアへ進出していった。それは、
名目は連合国側であった。それは、
ダと交戦す
るためだ
たが、実際
は喉から手
が出る程欲
しい石油を
はじめ戦争
遂行に必要
な資源を確
保するため
だったよう
だ。

短期間の旅でもあり、表面的
な捉え方になっていくかもしれ
ないが、約一年前のよ
うすを書き残したい。
インドネシア共和国
は東南アジア最南端の
国で、大小一万四千余
の島々から成り、世界
四番目に多い二億の人
々が住んでいる。色々
な人種の集まりで、約
二五〇の言葉を使って
いるという。
石油をはじめ、金銀
すずニッケルなどの地下資源に
恵まれた、平均気温二七、八度

我が国とよく似ている所をあげ
ると、

インドネシアへの日本企業の
進出には目を見張る。特に自動
車。それに空港、観光地、ホテ
ルなどで出会う日本人の顔、
顔。異国にいるような気がしな
い。
▲ 春夏は、紙面の都
合で今月は休載させていただきます。
▲